

ユニセフ 年次報告 2007

2007年1月1日～12月31日
(2008年発行)



unite for
children

unicef 

本書に掲載されている情報の出典について： 本書に掲載されているデータは、ユニセフ（国連児童基金）、そのほかの国連機関、ユニセフの各国事務所が提出している年次報告、ならびに2008年6月に開催されたユニセフ執行理事会に提出されたユニセフ事務局長の年次報告に基づく。

本書に記載されている資金額について： 断り書きがない限り、すべての額は米国ドルである。

表紙写真： © UNICEF/HQ07-1139/Shehzad Noorani

ユニセフ年次報告2007

(2007年1月1日～2007年12月31日)

目次

はじめに	2
子どもの生存と成長を 促進 する	4
数値が語る世界	
成果：ナイジェリア	
基礎教育とジェンダーの平等を 推進 する	8
数値が語る世界	
成果：スーダン南部	
子どもの保護を 最優先 に	12
数値が語る世界	
成果：朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）	
HIV/エイズの 予防	16
数値が語る世界	
成果：東ティモール	
アドボカシー（政策提言）とパートナーシップへの 参加	20
数値が語る世界	
囲み記事：国家予算、政府が考える価値	
人々の関心を子どもに 向ける	24
囲み記事：CSR（企業の社会的責任）	
リソースと行動を 生み出す	28



© UNICEF/HQ07-0643/Giacomo Pirozzi

はじめに

2007年は、子どものための多くの成功が明らかになった。9月、ユニセフのデータで、2006年の5歳未満児の年間死亡数が初めて1,000万を下回り、970万人になったことが分かった。これは1960年以来、子どもの死亡率が60%削減されたことを意味する。

11月には、はしかイニシアティブ——米国赤十字、ユニセフ、国連基金、米国疾病管理予防センター、世界保健機関(WHO)の協同プロジェクト——は、アフリカでのはしかによる死亡数が、2000年の39万6,000人から2006年の3万6,000人にまで減り、91%もの削減を見たと発表した。

12月、国連総会で「子どもにふさわしい世界+5」という記念すべきハイレベル会議が開催され、2002年の国連子ども特別総会で設定された目標の進捗状況が世界のリーダーたちにより確認された。リーダーたちによるこうした努力は、国連事務総長がまとめた包括的な報告書「子どもたちとミレニアム開発目標」によって支持されたが、この報告書では、ユニセフが提供したエビデンスに基づいた分析とデータが幅広く利用された。

この新しいデータと分析は——国際的に活躍する人たち、あるいは現場で活躍する人たちとの戦略的な関わりの中で——ミレニアム開発目標の達成と子どもの権利の保護を実現させることにさらなる国際的な関心を集めるきっかけとなった。

2007年、「子どもたちのために、エイズと闘おう」キャンペーン(「子どもとエイズ」世界キャンペーン)は、エイズに脅かされない世代の実現に向けてのさまざまな活動

に、引き続き国際社会の関心を集めた。世界でもHIVの感染率が最も高い国のひとつであるボツワナでは、母子感染率が4%まで削減され、抗レトロウイルス薬を投与される妊産婦の割合も、2006年に95%を超え、アフリカで一番高くなっている。

マザーズ・ツー・マザーズ(‘mothers 2 mothers’)プログラムは、健康な子どもを持つHIV陽性の母親たちのための草の根組織であるが、ケニア、レソト、南アフリカ、ザンビアの女性たち2万人に対し、月に1回、情報、支援、個人的なスキルを提供し、母親たちがHIVと共に生きる手助けをし、新生児を母子感染から守る活動をしている。

障害のある子どもたちの権利は、中国の上海で行われた2007年スペシャル・オリンピック夏季世界大会で始まったユニセフと国際スペシャル・オリンピックとのパートナーシップが焦点をあてたテーマである。このパートナーシップは、オペレーション・スマイル、セーブ・ザ・チルドレンほかの団体と協働で行っている既存の活動を補完するものであり、2006年の障害者の権利条約の採択を受けて実施されたものである。

学習促進プログラムやその他の教育革新により、2007年、リベリアやスーダン南部では、何十年も続いた武力紛争から解放された何百万人もの子どもたちが学校へ行けるようになった。「緊急事態下ならびに危機後の移行期にある国々での教育」プログラムを通して、ユニセフとそのパートナーたちは、災害に対する重要な手段、そして危機後の社会の復興に欠かせない要素として、教育を促進した。



© UNICEF/HQ/Nicole Touraouji

2007年を終え、ユニセフは、より焦点を明確化し、より成果に則った、戦略的なコラボレーション(協働)が可能となった。しかし、いまだに970万の子どもたちが5歳の誕生日を迎えることができない現実があり、こうした成果に満足している余裕はない。

2008年、ユニセフは、“Unite for Children”という合言葉のもと、2007年に得た経験、データ、知識をフルに活用し、独創的で、連携力に溢れた方法を模索し、子どもたちにより多くの成果をもたらすつもりである。

アン・M・ベネマン
事務局長
国連児童基金